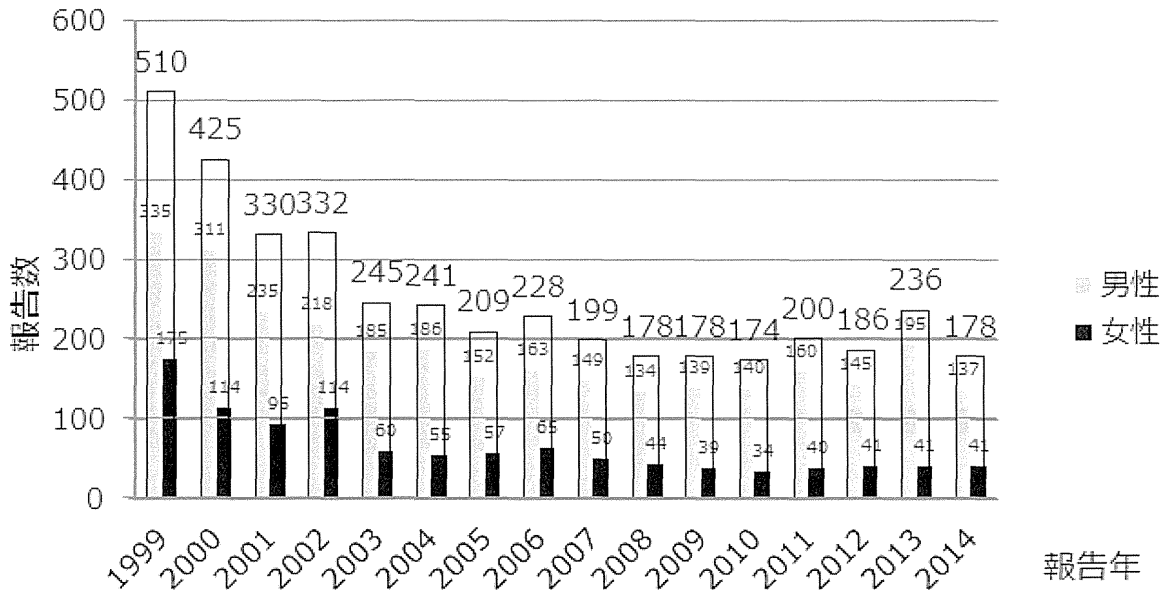


図1. B型肝炎の性別報告数の推移 1999-2014

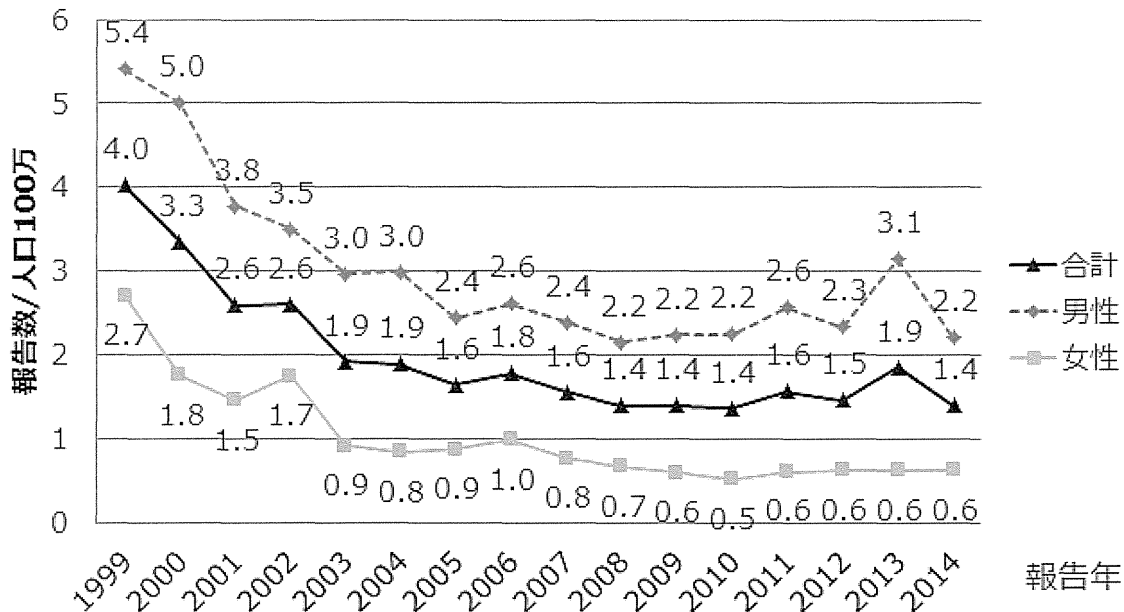


注) 1999年は4月以降の集計

感染症発生動向調査 1999-2013 年年報

感染症発生動向調査 2014 年暫定報 (2013年12月10日現在)

図2. B型肝炎の性別罹患率の推移、1999-2014



注) 1999年は4月以降の集計

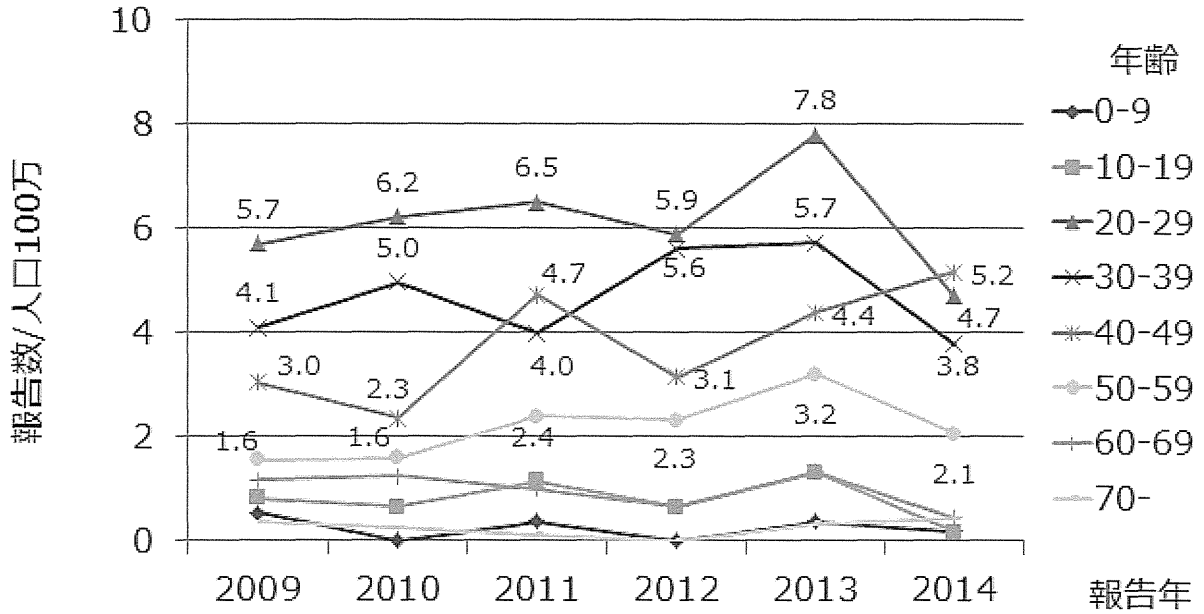
感染症発生動向調査 1999-2013 年年報

感染症発生動向調査 2014 年暫定報 (2014年12月10日現在)

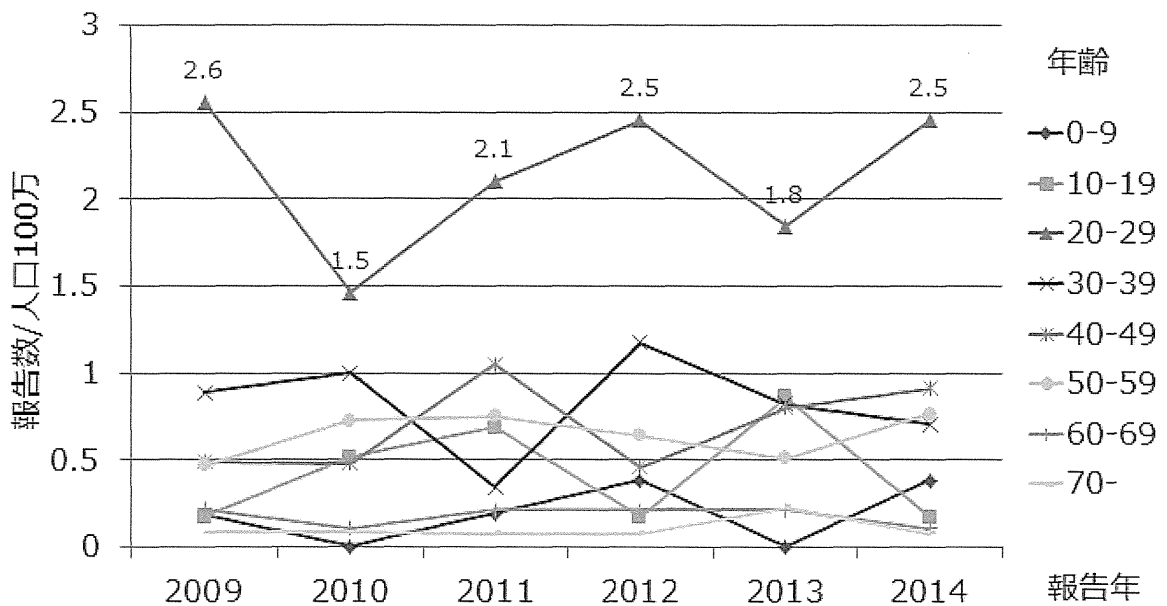
国勢調査、厚生労働省人口動態統計 (2013年と2014年は2012年人口を用いた)

図 3. B型肝炎の性別年齢群別報告数の推移、1999-2014年

男性



女性



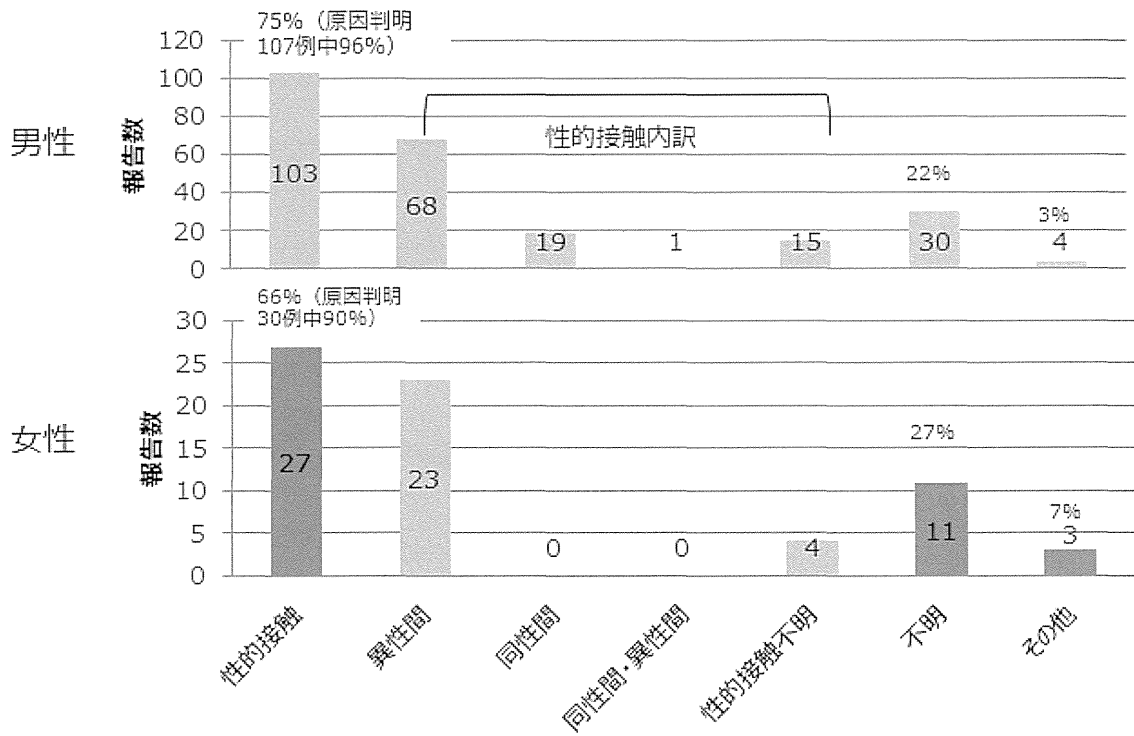
注) 1999年は4月以降の集計

感染症発生動向調査 1999-2013 年年報

感染症発生動向調査 2014 年暫定報 (2014年12月10日現在)

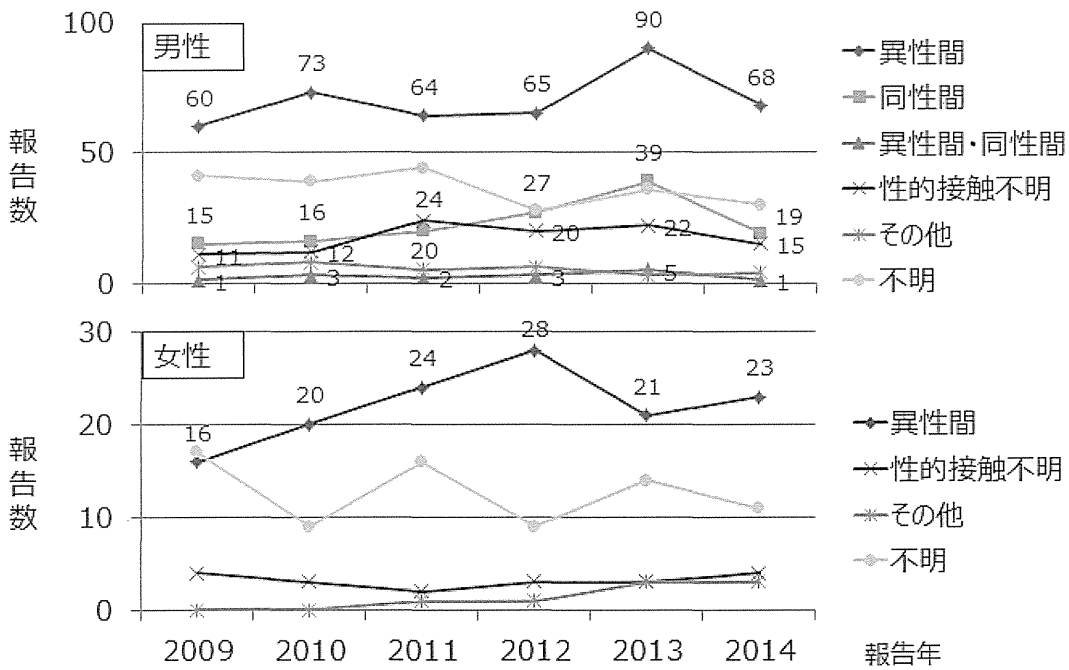
国勢調査、厚生労働省人口動態統計 (2013年と2014年は2012年人口を用いた)

図4. B型肝炎の性別感染経路別報告数、2014年



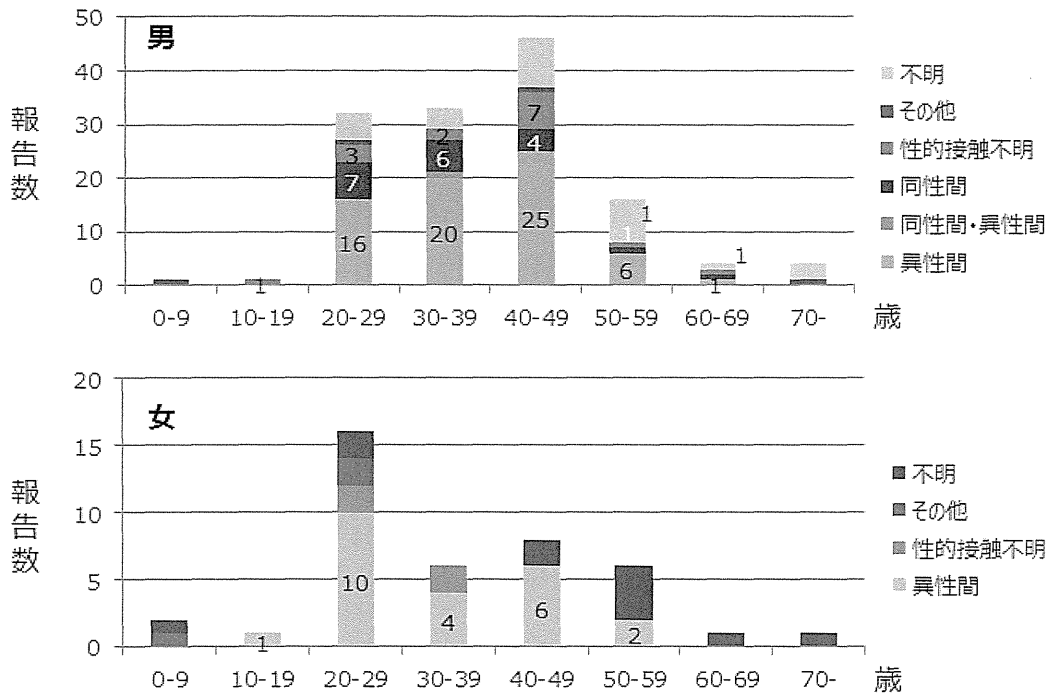
感染症発生動向調査 2014年暫定報 (2014年12月10日現在)

図5. B型肝炎の性別感染経路別報告数の推移、2009-2014年



感染症発生動向調査 2011-2013年々報、感染症発生動向調査 2014年暫定報 (2014年12月10日現在)

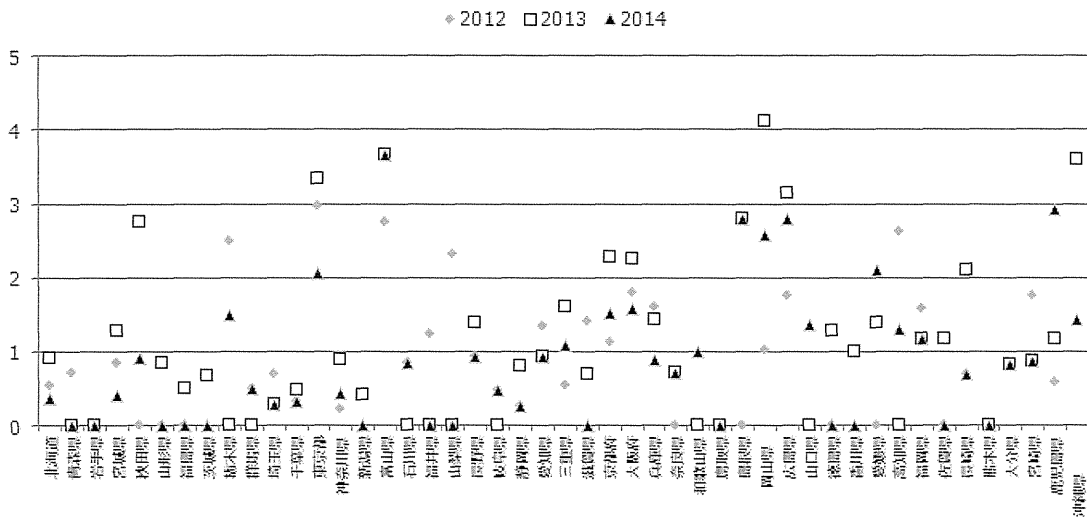
図6. B型肝炎の性別・年齢群別・感染経路別報告数 2014年



感染症発生動向調査 2014年暫定報 (2014年12月10日現在)

図7. B型肝炎の感染地域別報告数 2011-2014年

報告数/1,000,000



感染症発生動向調査 2012-2013 年年報、感染症発生動向調査 2014年暫定報 (2014年12月10日現在)

発生動向からみたB型肝炎を中心に したウイルス性肝炎の疫学状況

「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」
(研究代表者加藤真吾) 2014年 班会議

研究分担者 川崎市健康安全研究所 岡部信彦
協力研究者 国立感染症研究所感染症疫学センター
山岸拓也、加納和彦、砂川富正

1

目的・方法

目的：国内のウイルス性肝炎検査体制整備を含めた対策の推進の基礎データを提供するため、国内のウイルス性肝炎の動向を調べる

方法：以下のデータを使用した

ウイルス性肝炎データ

- 1999～2013年 感染症発生動向調査 年報データ
- 2014年 同 暫定データ (2014年12月10日現在)

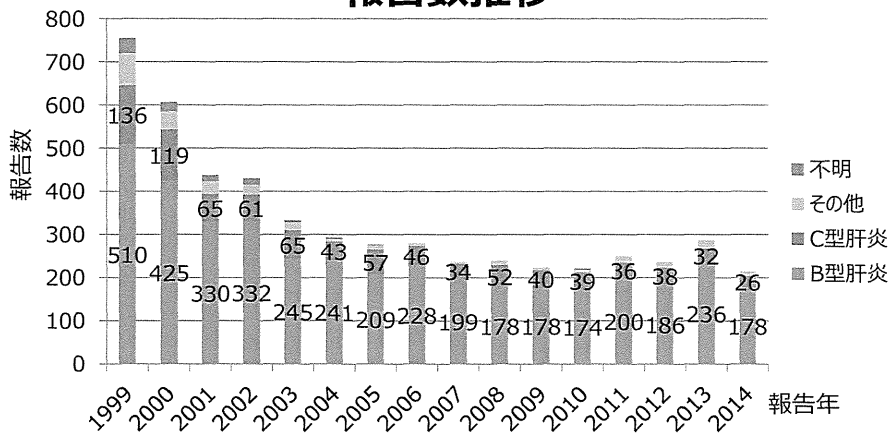
人口データ

- 2000、2005、2010年 国勢調査
- 1999～2012年 人口動態統計
- 2013、2014年は2012年を使用

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

2

ウイルス性肝炎の感染症発生動向調査 報告数推移

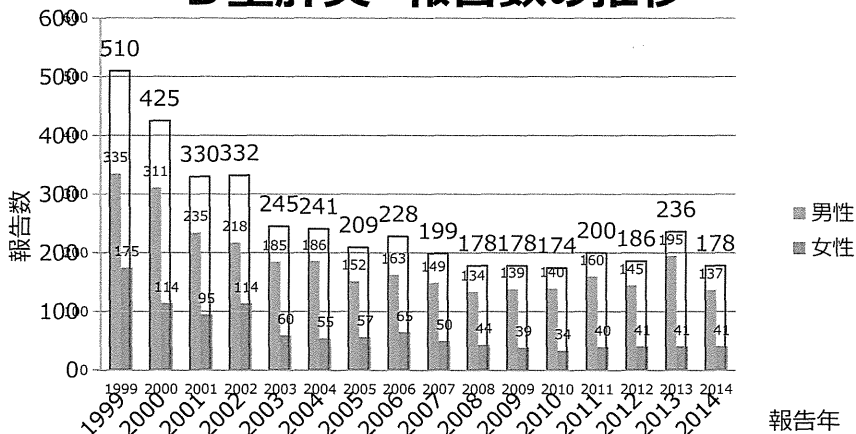


近年はB型肝炎が200前後、C型肝炎が30前後
その他はCMV、EBVが中心

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

3

B型肝炎 報告数の推移

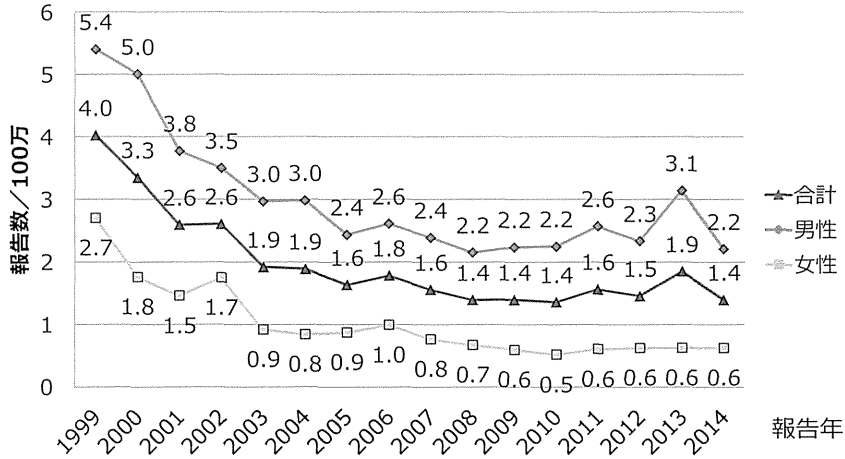


2014年は2012年報告数増加が認められていない

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

4

B型肝炎 罹患率の推移

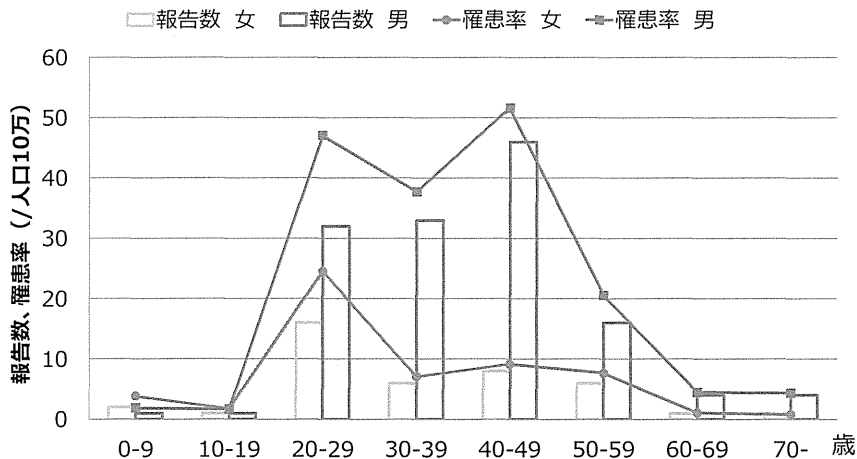


2014年 男性では罹患率が2012年の罹患率に減った

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

5

B型肝炎 年齢階級別罹患率、2014年

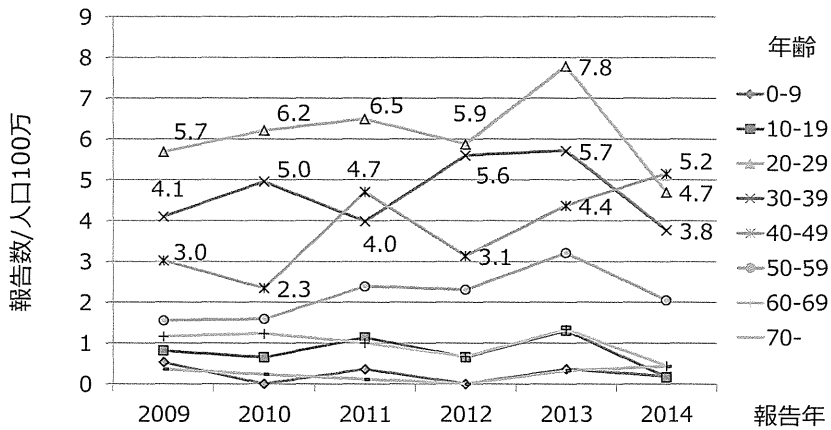


女性は20代がリスクが最もリスクが高かった
男性は、2013年までと異なり40代のリスクが最も高かった

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

6

B型肝炎 年齢階級別罹患率推移 男

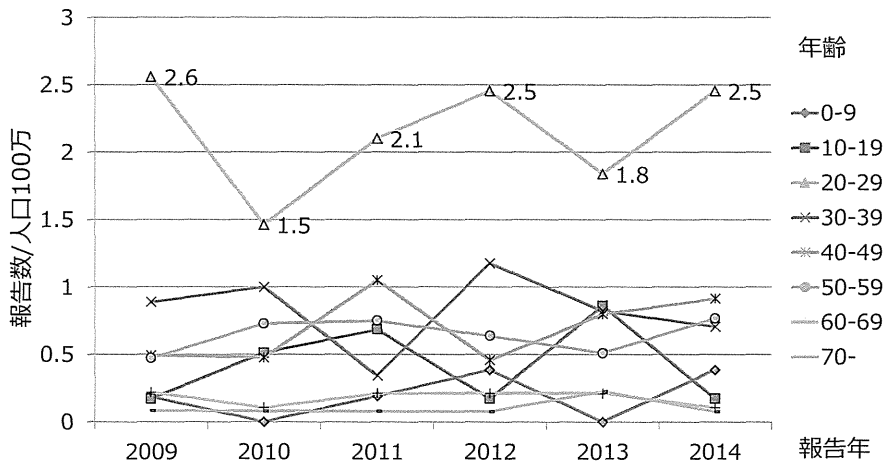


男性では2014年は40代で罹患率が増加し、他の年齢層では概ね罹患率が減少

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

7

B型肝炎 年齢階級別罹患率推移 女

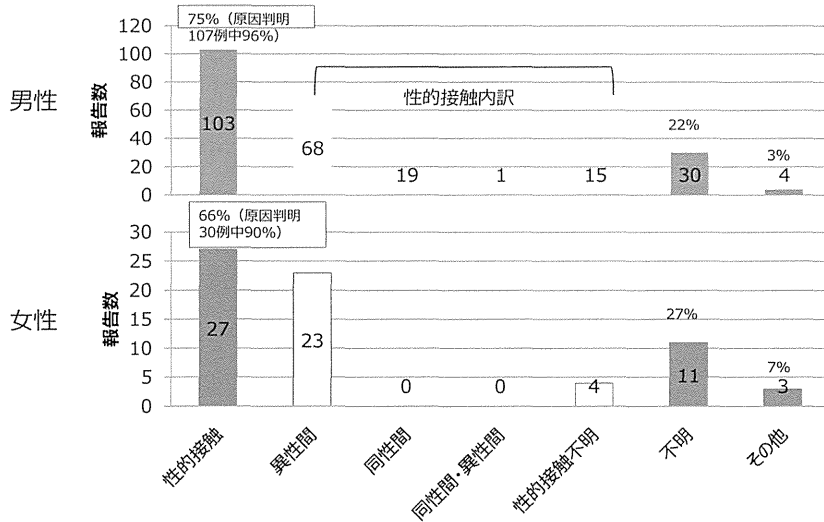


女性ではどの年齢層も概ね横ばい

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

8

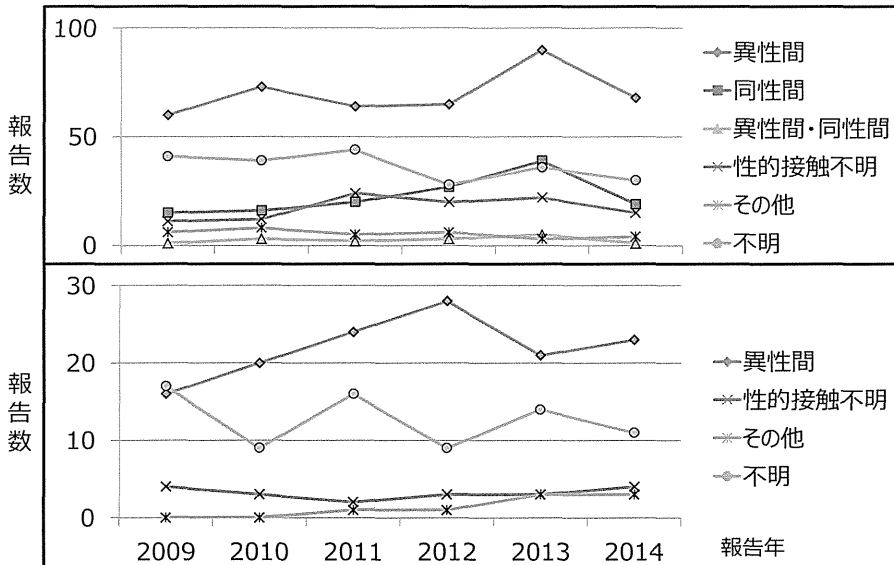
B型肝炎 感染経路別報告数、2014年



川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

9

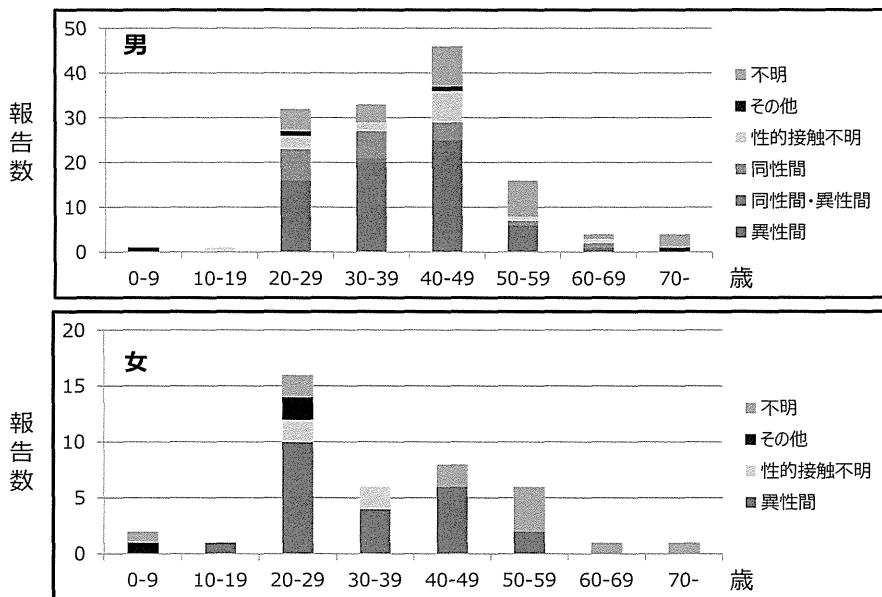
B型肝炎 感染経路別報告数推移



川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

10

B型肝炎 性別年齢階級別感染経路別、2014年



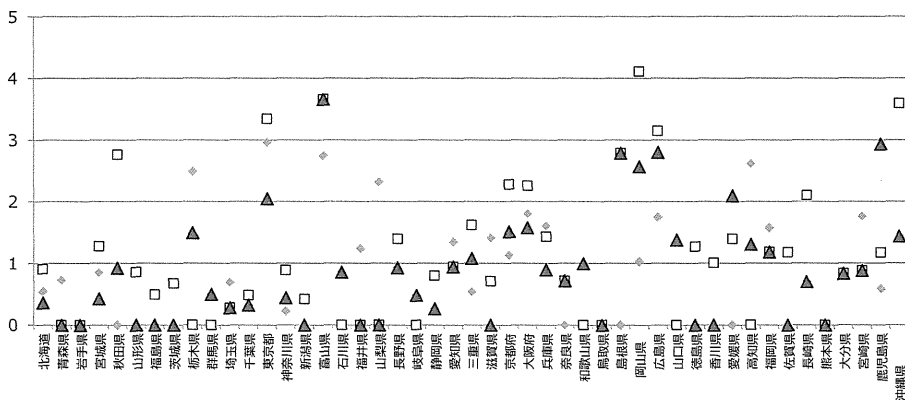
川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

11

B型肝炎 都道府県別罹患率

報告数/1,000,000

◆ 2012 □ 2013 ▲ 2014



富山県、島根県、岡山県、広島県、鹿児島県で高い罹患率
最近3年間では特に鹿児島県で罹患率が上昇傾向

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

12

結論

- 2014年は2013年より報告数が減少
- 男性の報告数が女性の報告数の約3倍であった
- 男性では40代、女性では20代が最もリスクが高かった
- 感染経路は、依然として性的接触による感染が9割以上を占めていたが、母子感染、鍼治療、歯科治療、輸血の報告が認められた
- 2014年は2013年に比べ、男性の性的接触による感染が減少し、東京や大阪等の大都市で特に報告が減少していた
- 散見される若年者の感染を予防するため、新生児期のワクチン化は重要

謝辞

感染症発生動向調査の報告に関わられた医療機関、地方自治体の皆様に感謝いたします

川崎市健康安全研究所 岡部信彦、国立感染症研究所感染症疫学センター 山岸拓也

13

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表
雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yoshida S, Hattori J, Matsuda M, Okada K, Kazuyama Y, Hashimoto O, Ibe S, Fujisawa SI, Chiba H, Tatsumi M, Kato S, Sugiura W.	Japanese External Quality Assessment Program to Standardize HIV-1 Drug-Resistance Testing (JEQS2010 Program) Using In Vitro Transcribed RNA as Reference Material.	AIDS Res Hum Retroviruses.		in press	
Tsuchiya K, Hayashida T, Hamada A, Kato S, Oka S, Gatanaga H.	Low raltegravir concentration in cerebrospinal fluid in patients with ABCG2 genetic variants.	J Acquir Immune Defic	15;66(5)	484-486	2014
Murata, K., Sugiyama, M., Kimura, T., Yoshio, S., Kanto, T., Kirikae, I., Saito, H., Aoki, Y., Hiramane, S., Matsui, T., Ito, K., Korenaga, M., Imamura, M., Masaki, N., Mizokami, M.	Ex vivo induction of IFN- γ 3 by a TLR7 agonist determines response to Peg-IFN/RBV therapy in chronic hepatitis C patients.	J Gastroenterol	49	126-137	2014
Ito, K., Yotsuyanagi, H., Yatsushashi, H., Karino, Y., Takikawa, Y., Saito, T., Arase, Y., Imazeki, F., Kurosaki, M., Umemura, T., Ichida, T., Toyoda, H., Yoneda, M., Mita, E., Yamamoto, K., Michitaka, K., Maeshiro, T., Tanuma, J., Tanaka, Y., Sugiyama, M., Murata, K., Masaki, N., Mizokami, M., and the Japanese AHB Study Group.	Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults.	Hepatology	59	89-97	2014
Nishida, N., Sawai, H., Kashiwase, K., Minami, M., Sugiyama, M., Seto, W.K., Yuen, M.F., Posuwan, N., Poovorawan, Y., Ahn, S.H., Han, K.H., Matsuura, K., Tanaka, Y., Kurosaki, M., Asahina, Y., Izumi, N., Kang, J.H., Hige, S., Ide, T., Yamamoto, K., Sakaida, I., Murawaki, Y., Itoh, Y., Tamori, A., Orito, E., Hiasa, Y., Honda, M., Kaneko, S., Mita, E., Suzuki, K., Hino, K., Tanaka, E., Mochida, S., Watanabe, M., Eguchi, Y., Masaki, N., Murata, K., Korenaga, M., Mawatari, Y., Ohashi, J., Kawashima, M., Tokunaga, K., Mizokami, M.	New susceptibility and resistance HLA-DP alleles to HBV-related diseases identified by a trans-ethnic association study in Asia.	PLoS ONE	9	e86449	2014
Masaki, N., Sugiyama, M., Shimada, N., Tanaka, Y., Nakamura, M., Izumi, N., Watanabe, S., Tsubota, A., Komatsu, M., Masaki, T., Enomoto, N., Yoneda, M., Murata, K., Ito, K., Mizokami, M.	Pretreatment prediction of the outcome of response-guided peginterferon- α and ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	J Gastroenterol Hepatol	29	1996-2005	2014
Mukaide, M., Sugiyama, M., Korenaga, M., Murata, K., Kanto, T., Masaki, N., Mizokami, M.	High-throughput and sensitive next-generation droplet digital PCR assay for the quantitation of the hepatitis C virus mutation at core amino acid 70.	J Virol Methods	207	169-177	2014
Aoki, Y., Sugiyama, M., Murata, K., Yoshio, S., Kurosaki, M., Hashimoto, S., Yatsushashi, H., Nomura, H., Kang, J.H., Takeda, T., Naito, S., Kimura, T., Yamagiwa, Y., Korenaga, M., Masaki, N., Izumi, N., Kage, M., Mizokami, M., Kanto, T.	Association of serum IFN- γ 3 with inflammatory and fibrosis markers in patients with chronic hepatitis C virus infection.	J Gastroenterol		in press	
大多和由美、前田憲昭、溝部潤子、的野慶、池野良、中川裕美子、加藤真吾	院内ポスターを活用したHIV検査へ繋げる歯科診療。	日本エイズ学会誌		(印刷中)	
矢永由里子、今井光信、加藤真吾。	研修事業の取り組み：研修をデザインすること。	日本エイズ学会誌。	16(3)	185-193	2014
村田一素	難治性腹水－実は医原病？	Medical Practice	31	835	2014

平成26年度 厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服政策研究事業
「肝炎ウイルス検査体制の整備と受検勧奨に関する研究」
平成26年度 研究報告書

発行日 2015年3月31日
発行者 研究代表者 加藤真吾 (慶應義塾大学医学部)
発行所 研究班事務局
慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

©2015 編集・構成： 須藤弘二、志摩圭子 印刷：慶應義塾生活協同組合

本報告書に掲載された論文及び図表には
著作権が発生しておりますので
利用にあたりご注意ください。

